

★講演★

# 中国の近代化

市古宙三



(一九七八年一月十七日に幼児教育  
現職研究で行なわれた講演より)

## 近代文明の摂取の仕方

私は、中国の歴史を専門にやっているんですけれど、中国と日本とを比べてみると、いろいろと違う点があると思います。私がひとつ問題に思っているのは、西欧の近代文明をいかに摂取していくかの過程についてであります。

日本も中国も西洋の近代文明に接するようになったのは、ほぼ時を同じくしています。しかし、その結果を見ますと、随分、隔りがあります。通俗的な言葉で言えば、日本の方が早くて、中国の方が遅いのです。

どうしてかということはいろいろな人が問題にしています。中国は日本なんかと比べものにならない程、図体が大きいので、「大男、総身に知恵が回りかね」式に、なかなか早くはいかないという点もあった

かと思ひます。

しかしそれよりも、外来の文明に対する態度、撰取の仕方に、日本と中国では大きな違いがあつたのではないのでしょうか。

## 東アジアの地形

第一に、中国人の場合には、外から取り入れるような、すぐれた文明をその周辺にもっていませんでした。これは日本と非常に違つています。

家に帰つたら地図を広げて見て下さい。

中央アジアに世界の屋根といわれるパミール高原があります。ここから東北の方面に山脈が走つて、オホーツク海に行つていきますね。パミール高原から東南の方へは、やはり山脈、高原、密林が走つて、東南アジアの方へ行つていきます。

今日であれば、中国からソ連に行くとか、印度、ヨーロッパに行くなんてこと

は、ひとつ飛びで、何でもありませんけれども、飛行機や汽車、汽船もなかつた十八世紀以前でありますと、今では何でもなくとも、あの高原、山脈や砂漠地帯は、天然の障壁でして、これを通り越えることは、まず不可能とされておりました。

ですから、パミール高原を扇の要かたとして、東に向けて開いている扇状の地帯、これを東アジアというんですけれども、こゝは、他の世界から隔離された世界で、東アジアだけが、ひとつの世界を形成していったといつていいでしょう。

この東アジアを見てみますと、中国のほかに、ろくな所がありません。いい所と言いますと、黄河とか揚子江、珠江であるとかいう大河に灌漑まされました、中国の平原だけです。その周りは、砂漠であるとか、高原であるとか、密林であるとか、あるいは、東へ行くと日本のような小さい島だとかで、ろくな所がないんです。

昔から東アジアで文明が栄えた所は、どこかといえますと、黄河や揚子江の流域の、あの中国、中原の平野で、ここ以外に文明の花を咲かせたような所はありません。人が住んでおりましたが、食べてゆくのがやつとで、文明の花を咲かせるような余裕がないわけです。

ですから、東アジアという、ひとつの隔離された世界では、中国人の、漢民族の住んでいた所だけが、良い所であつて、ここには、三千年、四千年の昔から文明の花が開花しております。でも、ここ以外には、中国文明に匹敵するような文明は発達しませんでした。

もちろん中国の周りには、野蛮な武力の強い連中は住んでいます。チベット人、トルコ人、モンゴル人などがそれです。この連中が中国の中に攻め入つて来たことは、何回もあります。そしてこの連中から、武器や戦争の仕方を学んだことはあります。

しかし中国人にいわせれば、そんなものは文明ではありません。野蠻です。文明に関する限り、トルコ人やモンゴル人は何も持っていない、中国の文明を学びに来たんです。ですからこの連中に、中国は何度も支配されたことがあります、その支配は、政治的、軍事的なもので、文化的には逆に中国文明に支配されたのです。

こういう状態ですから、学ぶようなものは、周りに何も無いわけです。日本なら、外来文明にすぐ飛びつきますけれども、飛びつくような外来文明を中国は持つておらなかったのです。

### 極楽浄土と仙境

もちろん、私は東アジアが隔離された世界だといいましたけれども、全く隔離されていて、少しも抜け道がないというわけではありません。ですから中国へも、外来文

明が伝わって来たことはあります。皆さんも御存知のように、一、二世紀のころ、仏教が印度から中国に伝わって来ました。

しかし、その受け入れ方がストリートではないんです。ストリートでないということは、どうということかと申しますと、仏教にいう極楽浄土というのは、死ななければ行けない所です。ところが中国人は、この極楽浄土を、はじめは、仙人の住む仙境のことだと思っていました。

仙境というのは、東海の三神山のように、不老長生の薬を持っている仙人の住む所です。これは、極楽浄土と似ています。が、本質的に全然違うんです。極楽浄土は死ななければ行けない所です。ところが、仙人の住んでいる所、仙境は、なかなか行けないけれども、絶対に行けないというわけではない。死ななければ行けないというのではなくて、現世の延長にあるんです。ユートピアなんです。極楽浄土とは性格が

違うんです。

ではなぜ中国人は古くから、死後の世界ではなく、現世の延長に、理想郷を描いたのでしょうか。それは中国人が現実的、現世的であったからだと思います。中国人にとっては、死後の世界など、どうでもいいんです。

現世において、もっとお金持ちになりたい、もっとおいしい物を食べたい、暖かい所に住みたい、長生きしたいのです。中国人は、極楽浄土のような所よりも、不老長生の薬のある仙境のような所に非常に魅かれるわけです。

仙人の住む所と極楽浄土とは全然違います。それなのに極楽浄土を仙境と考えるとしますと、それは、仏教の教えを正しく受け入れたことにはなりません。中国的、伝統的な考えで読み直しているわけです。だんだんと仏教を勉強していくうちに、本当の極楽浄土は仙境と違う、こういうも

のなんだとわかってゆくけれども、仏教がわかるまでには長い時間がかかってしまふんです。そして、長い時間をかけて、伝統的なもので解釈している間に、本もとのものが歪よこしまんでしまいます。

印度の仏教とは違った、中国式仏教が誕生するわけです。歪よこしまんだといつても決して悪い意味ではありません。中国の伝統に根ざした、中国の国土、国情にふさわしいものになっているのです。

## 議会制度

中国が西欧の近代文明を撰取する場合にも、この仏教の場合と同じことがいえます。例えば、日清戦争の後になると、議会政治を中国でも行なおうという運動が起こります。中国には今まで議会というものがない。日清戦争の時に、中国が日本に散々に負けてしまったのはどうしてかと言う

と、日本は戦争するとかしないとかいうことを、天皇が一人で勝手に決めるのではなくて、国民の代表が集まっている議会で決めている。だから国民は、皆、戦争をしているという気になるから、一致団結して戦争をすることができません。

ところが中国には議会がない。戦争は上部の連中が勝手にやっているので、国民は無関心、これではとても勝てません。どうしても議会をつくらねばならない。

そういう所から、日清戦争のころ、西欧の議会政治を熱心にとりいれようという運動が起こりました。その中心人物は、皆さんも御存知と思いますけれど、康有為という人です。彼は議会政治は、今日、ヨーロッパの国々が持っていて中国にはないけれども、中国にもととあったものなんだといひます。

なぜかというに、『書経』に、「謀リテ卿士ニ及ビ、謀リテ庶人ニ及ブ」とありま

す。この「謀リテ卿士ニ及ブ」というのは、上院の制度で、「謀リテ庶人ニ及ブ」というのは、下院の制度だということです。

また『孟子』の中に、「左右皆殺スベント曰ウモ、聴ク勿レ。諸大夫皆殺ス可シト曰ウモ、聴ク勿レ。国人皆殺ス可シト曰イ、然ル後之ヲ察シ、殺ス可キヲ見テ、然ル後之ヲ殺セ」とありますが、康有為はこれも二院の制度だといひます。

康有為によれば、昔は中国にもちゃんと二院の制度があったんだけれども、その後、秦の始皇帝が出てから時代が悪くなつてしまつて、二院の制度がなくなつた。だから今、自分はイギリスやアメリカのまねをしようと言っているのではなく、昔からあったものを復活しろと言っているにすぎないといひます。

もしそうだとしますと、孟子の中には、非常に民主的に見える点があります、けれども孟子の考え方は民主ではありません。

君とは、民を使うものなんです。民とは君に仕えるもの、使われるものなんです。孟子の言っているのは、君は民を使っている、ただ君が民を使う場合に、殴ったり乱暴したりしてはいけない、使われる人のこともよく考えて使えと言っているのだから、決して民主という考え方ではないわけです。

民は主人ではありません。ただ民は本で、民の身になり、民のことを考えて、君は政治を行なわなければいけないというので、私たちの学生の頃は、孟子の思想を民本思想などと申していました。

康有為は議會を民本主義の産物と見ていたのです。民主主義とは中国に伝統する民本主義だと思っていたわけです。そうしますと、西欧の民主主義はこういうもんだと本当に理解するまでには、うんと時間がかかります。

しかし、西欧の民主主義を一応自分の伝

統的なもの、民本主義で理解するので、うんと時間はかかるけれども、まさに中国の国土、国情にふさわしいところの民主主義というものが中国に生まれてきます。

## 「大同」の世

これと同じようなことは、社会主義、共產主義についてもいえるのではないでしょう。毛沢東は理想の社会を、国家もない階級もない社会と考え、これを「大同」の世とっています。実は「大同」の世を理想の社会とするのは、何も毛沢東に限ったことはありません。太平天国の洪秀全も、さき程お話ししました康有為も、理想郷を「大同」の世とっています。

この「大同」の世は、『礼記』の「礼運」という篇に、次のように書かれています。

大同ノ行ワレンヤ、天下ヲ公ト為

ス。賢ト能トヲ選ビ、信ヲ講ジ睦ヲ修

ム。故ニ人独リ其ノ親ヲ親トセズ、独リ其ノ子ヲ子トセズ。老ヲシテ終ル所アリ、壮ヲシテ用イル所アリ、幼ヲシテ長ズル所アリ、矜寡孤独廢疾者ヲシテ、皆養ウ所アラシム。男分有リ、女婦有リ。貨ハ其ノ地ニ棄テラレルヲ惡ミテ、必ズシモ己ニ藏セズ。力ハ其ノ身ニ出デザルヲ惡ミテ、必ズシモ己ノ為ニセズ。是ノ故ニ謀ハ閉ジテ興ラズ、盜竊亂賊スナワチ作ラズ。故ニ外戸シテ閉ジズ。是ヲ大同ト謂ウ。

太平天国では儒教の經典は読んではいけないことになっていて、学校で教科書に使用するのは漢文に翻訳された『旧約聖書』、『新約聖書』です。洪秀全の思想もこれに拠っているわけですが、彼はバイブルの解釈を宣教師から学んだわけではありません。自分で勝手に解釈したのですが、その時、彼の頭の中にあつたものは、儒教的な物の見方、考え方以外の何ものでもありません。

せん。前に申しました『札記』の「大同」の世で以てバイブルを解釈し作りあげたのが、洪秀全の理想の社会です。それは『天朝田畝制度』という冊子に書いてあります。

康有為は理想の世界をえがいて、『大同書』という本を書きました。これに書いてある理想の社会というのは、次のようなものです。

- 一、対立する国家は世界に存在しない。世界にはただ一つの総政府があるだけです。また全世界は幾つかの区に分かれていて、区ごとに一つの政府があります。
- 二、総政府、区政府は民選で作られません。
- 三、男女は契約結婚をして、同棲の期間は一年以内とします。但し兩人が合意すれば、契約を更新することも出来ません。

四、女子が妊娠しますと人本院に入り胎教をうけます。生まれた子どもは育嬰院で育てられます。

五、子どもが六歳になると小学院、十歳になると中学院、十六歳になると大学院に入り教育を受けます。

六、二十歳で大学院を卒業した者は、政府の命令で農業、工業などの生産事業に従事します。農工商業はみな公営です。

七、失業者は恤貧院に、病人は医疾院に、六十歳以上の老人は養老院に入ります。

八、死ぬと考終院というものがあって、一切の面倒を見られます。死体は火葬にし、火葬場の近くに肥料工場を作ります。

九、人本院から考終院にいたるまでのすべての院は公営で、誰でも無料で入り、最高の享楽を得ることができま

す。

十、宿舍、食堂も公営ですが、費用は各人が労働で得た報酬で支払います。

十一、怠け者は最も重い刑罰に処せられます。

十二、学術上の発明をした者、人本などの諸院で働いて功績のあつた者は特別に賞します。

康有為のこういう考え方は、彼が西洋思想を学んでから作られたものですが、その根本には矢張り中国伝統の大同の思想があつたことは間違いありません。

### 人民公社

毛沢東の場合はどうでしょうか。みなさんもよく知っていますように、毛沢東は一九五八年から人民公社をつくりました。これは年が経つにつれて随分変わってきますが、これからお話しするのは最初のころの

人民公社です。

当時の公社は、わかり易く申しますれば、平均五千戸、二万乃至二万五千人の集団農場のようなものです。但し西洋人が「コミュニオン」と申しますのでもわかりますように、農業生産の組織であるだけでなく、工業、商業、教育、軍事の組織単位でもあり、また同時に行政の単位でもありません。

ではこれから農業についてだけお話ししましょう。土地は全部公社のもので、農具も種子、肥料などもみな公有のもので、各農家は公社の計画に従って、共同して耕作に従事します。報酬は半賃金、半供給とあって、賃金の方は働き振りに応じて違いますが、日常必需の物の多くは公社から誰でも同じように支給されます。供給の多いところになりますと、例えば河南省の安豊人民公社では、「十三の保障」といって、家も着物、寝具も靴も食事も、みな公

社から与えられます。そのほか出産、育児、教育、結婚、医療、葬式はみな無料、理髪、観劇もただですし、男子六十五歳、女子六十歳になりますと労働を免除され、幸福院（養老院のこと）で生活します。

社会主義の社会では労働に応じて分配されるのですが、人民公社では、日用必需の品は労働に応ずるのでなく、誰にでも同じように分配されます。中国では、ソ連に先んじて共產主義の社会になったと、人民公社を誇りました。

詳しくお話しする時間がありませんが、これは太平天国の理想とする社会にとても似ています。そして太平天国の理想の社会は、ほとんど西洋に学ぶ所はなく、専ら『礼記』の大同に学んだことは、さきに申しました。そうしてみますと、毛沢東の理想の社会も、彼がマルクス・レーニン主義に学んだことは明かですが、この理想の社会の構想を形成する中に、中国伝統的な大

同の思想が入っていることはほとんど間違いないでしょう。マルクス・レーニン主義をそっくりそのまま真似るのではなく、マルクス・レーニン主義を中国の伝統思想で解釈することも、毛沢東の場合に有って、それ故に中国の国土や国情にふさわしい、ソ連のマルクス・レーニン主義とは違った、中国のマルクス・レーニン主義が生まれているのだと思います。

こう考えて参りますと、「近代化が遅い」などといって馬鹿にするとしたら、それは大変です。外来の文明をせっかちに採り入れるのでなく、ゆっくりと採り入れ、自国の風土や国情にふさわしいものにするからこそ、大事なのではないでしょうか。

（お茶の水女子大学長）